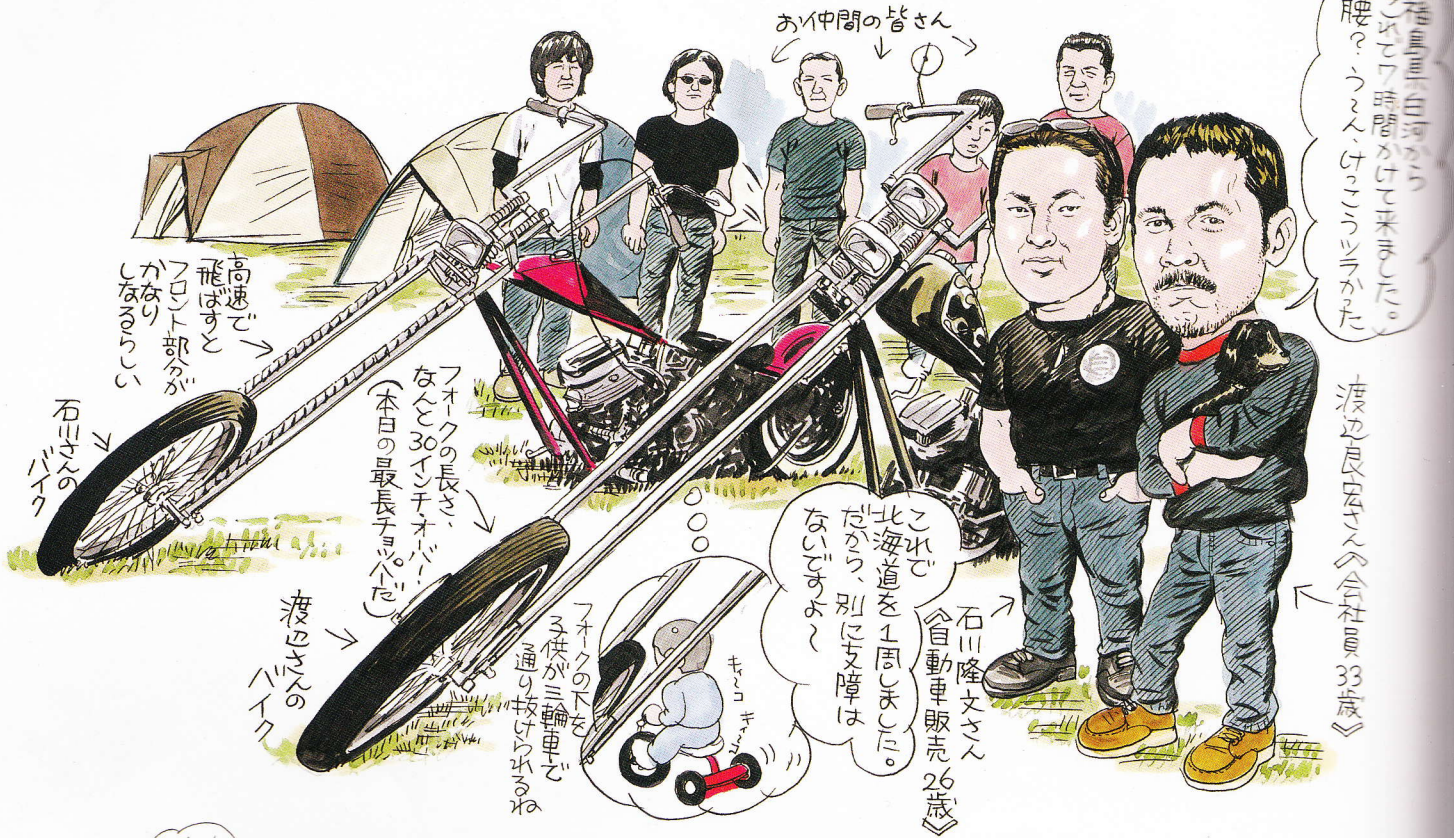


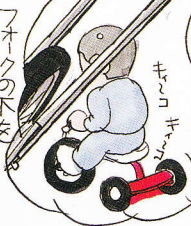
イケてるロング・フォークを探せ!
クラブ・ハーレーのチョッパー特集!



渡辺 貞広さん(会社員 33歳)

石川 隆文さん
《自動車販売 26歳》

これで北海道を一周した。だから、別に支障はないですよ。



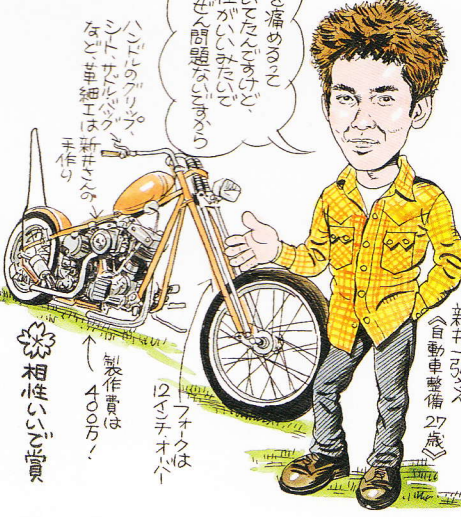
フォークの下を子供が三輪車で通り抜けるね

渡辺さんのバイク

石川さんのバイク

高速で飛ばすとフロント部分がかなりしなるらしい
フォークの長さ、なんと30インチオーバー!
(本日の最長チョッパーだ)

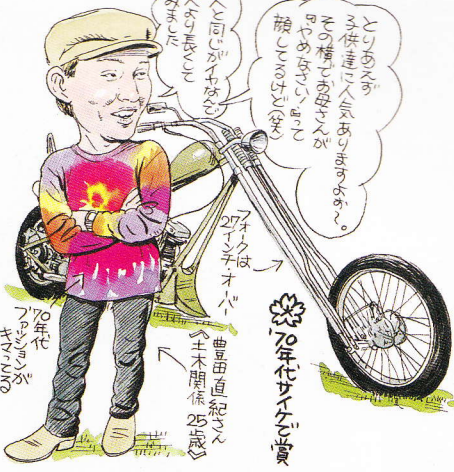
腰を痛めるの、個性が強いので、せめて問題ないくらい



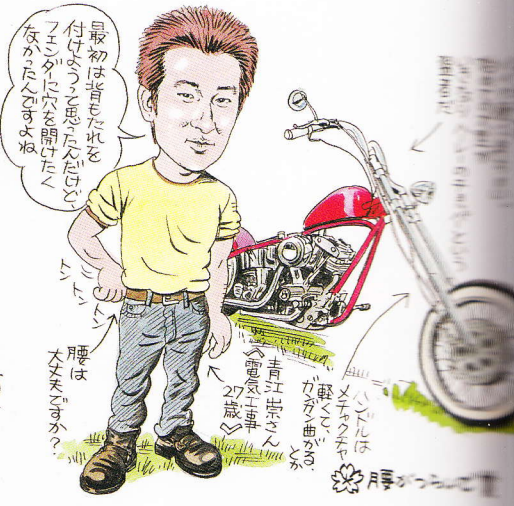
新井 弘さん
《自動車整備 27歳》

相性いいご賞

70年代サイズご賞



70年代チョッパーの個性



青江 正平さん
《電気工事 27歳》

腰は大丈夫ですか?

その場で、ノーマルのスポーツスター乗りのM君がボクにそっと耳打ちした。「やつぱり、乗りにくいとかは禁句なんですよ。ほとんどの場合、『もつと激しく!』っていう要望を、ビルダー側がいさめるパターンが多いんですから」うーん、人間をSとMに大きく二つに分けると、チョッパー乗りは間違いなく、ハードコアなMである。

そんな中、この日一番のM男君は、30インチ・オーバのチョッパーで福島県から7時間かけてやって来た、という渡辺良宏さんと石川隆文さんだ。もうこのレベルになると、もの干し竿として洗濯物をつるしたい領域だ。ちなみに、彼らのお仲間の最長は34インチ・オーバとか。「友達の長いヤツを見ると、もつと長くしてやろうと欲が出る」というから、まだまだ成長が期待できる、バイアケラ・フォークであった。ハァ。

最後にワレワレは、イベントに出店していたショップ、「ジャバンドラッグカストムサイクルス」の小川泰良さんから、チョッパーの魅力についてうかがった。「ひと言でいえば、クール! 定義なんではないよ。タイヤがどうだろうがエンジンがどうだろうが自由。法規の範囲内だったら何やってもOKなのが、チョッパーですから。このクソくらえな世の中、みんな我慢して人生の時間を切り売りして、札束に換えて生活してるわけじゃないですか。それ以外の時間を楽しみたいから、チョッパーに乗るんですよ」

曲がったことが大嫌い、自分に正直にまっすぐ走りたい。難儀だけどそれもまた「大人のいやし」か。いや、奥が深い。